

AAF NEWS

VOL.14

2015
AUTUMN

ご協力いただいたみなさまにAAFの活動をお知らせします

CONTENTS

NEWS

TOPICS

竹中工務店深江竹友寮で寮祭が開催され、売上金がAAFに寄付されました

COLUMN

AAF PROFILE

AAF Asian Architecture Friendship



ネパール中部地震により寄宿舎が被災し、テントで暮らす生徒たち

NEWS

ネパール中部で発生した大地震により、フィリムのブッダ・スクールの寄宿舎3棟が修復不能な状態に。地震から半年が経過した今も生徒たちはテント生活を送っています

[>次ページに詳細を掲載](#)

ネパール中部で発生した大地震により、フィリムのブッダ・スクールの寄宿舎3棟が修復不能な状態に。地震から半年が経過した今も生徒たちはテント生活を送っています

現地の状況

2015年4月25日に発生したネパール中部大地震から約5か月が経過した9月26日、AAFがゴルカ郡フィリム村に入り、ブッダ・スクールの被災状況の調査を行いました。震災直後から現地入りを模索してきましたが、崖崩れ等により分断された陸路の復旧が進まず、またヘリコプターも各地への支援物資の輸送のために不足している状態が続いていたため、予想以上に時間がかかってしまいました。

現地を調査して明らかになったことは同じ敷地内の建物でも建設した時期によって被害の状況に大きく差があったことです。2003年に竣工した1期工事の校舎、図書室、職員室等は一部の教室の壁の石が部分的に脱落した程度でほとんど被害はありませんでした。損傷した教室の壁も、教員と生徒たちですぐに修復を行い、地震の1か月後にはこれまで通り授業が再開されています。

ところが2009年に竣工した2期工事の寄宿舎は3棟とも外壁が大きく崩落し、修復不能な状態です。4月25日の地震直後は屋根はかろうじて落ちずに残っていたのですが、5月12日に2回目の大きな地震があり、そのままでは危険な状態となったため、支援に入ったネパール軍隊によって撤去されました。この寄宿舎3棟に入居していた生徒85名と、道が崩れて通えなくなった生徒22名の計107名が現在もテントでの生活を余儀なくされています。同時期に竣工した

食堂棟と便所棟は、円形という平面形状や小規模であったことから一部の外壁の石が崩落しましたが、修復可能な範囲です。

本来2期工事で計画されていましたが予算の関係で工事が遅れ、2011年に竣工した4棟目の寄宿舎は他の寄宿舎と同じ設計にもかかわらず、全く被害はありませんでした。

また建設中であった3期工事の教員宿舎は寄宿舎同様、壁が大きく崩落し、これも修復不能な状態です。

なぜ、寄宿舎3棟と教員宿舎の被害が他の建物と比べて大きかったのか。AAFが崩落した壁の構造を調査したところ、外壁の石の積み方が設計図通りに施工されていないこと、石と石の間にモルタルを充填するように指示していたにもかかわらず、ほとんどモルタルが充填されていなかったことがわかりました。

工事中は工事の進捗状況と工事写真を付けたレポートをAAFに提出することを現地スタッフに義務付けていましたが、そのレポートからはそのような工事の不備を把握することはできませんでした。

地震が起こった4月25日は始業式の1日前で、幸い校舎にも寄宿舎にも誰もいなかったため、学校内での地震による死傷者はありませんでしたが、もし1日ずれていたら多くの犠牲者が出ていたことが予想されます。



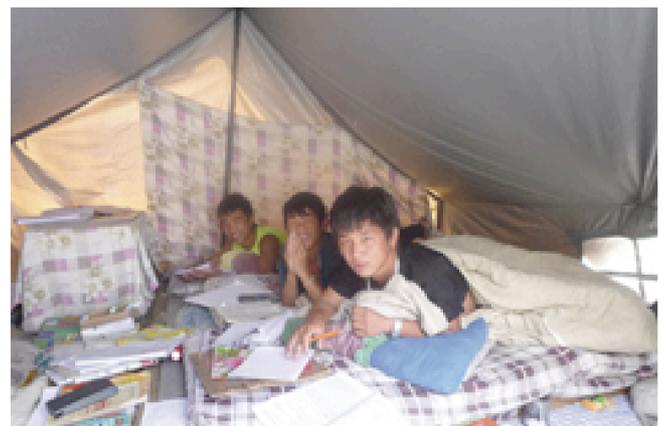
壁が大きく崩れ、修復不能な寄宿舎



4棟目の寄宿舎は無傷



崩れた壁の詳細 石が小さくモルタルが充填されていない



テントの中で勉強する生徒たち

再建に向けて

ネパール教育省によると、今回の地震によりネパール全土で8242校の公立校に被害があり、約2万5000教室が全壊、約2万2000教室が半壊あるいは一部損壊とされています。この状況を受けてネパール教育省は被害が大きかったゴルカ郡を含む6つの郡でJICA(国際協力機構)と提携し、日本政府の資金協力により校舎の再建計画を策定しています。AAFはネパール教育省に赴き、この再建計画の詳細を確認したところ、第1段階として全壊の80校を選定し、次に被害の程度に応じて第2、第3段階の学校を720校選定、2016年から2019年まで4年かけて計800校を再建していく、というものでした。現在は再建のための耐震モデルを検討中とのことで、再建工事に着手するのは第1段階の80校が最短で2016年2月。また寄宿舎を再建の対象に含むかどうかは現在のところ未定、とのことでした。この計画ではいつになればブッダ・スクールが再建できるのか、また再建の対象になるのかも定かではありません。

テントで暮らしている生徒たちが入居できる仮設の寄宿舎をとりあえず建設して、教育省の再建計画を待つということも考えられますが、仮設寄宿舎を建てるにもそれなりの費用がかかります。また冬寒く夏暑い仮設の寄宿舎では生徒たちの健康の維持にも不安があります。AAFはブッダ・スクールの学校運営委員会と協議し、現在残っている壁を一旦すべて撤去して、資材の運搬が可能になり次第、本設の寄宿舎の再建工事に着手することを決定しました。今回

も工事は技術を持った数人の職方をリーダーに、村人たちの手で行うことになります。さっそく周辺の村から村人たちを集め、今回被害を受けた寄宿舎等が設計図通りに施工されていなかったこと、一刻も早く寄宿舎を再建し、テントで暮らす子供たちが入居できるようにする必要があることを説明し、協力を仰ぎました。村人たちは再建のための瓦礫の撤去と再利用できる石の選別をボランティアで実施することを約束してくれ、翌日から作業が始まりました。再建する寄宿舎は材料調達と施工技術の関係からこれまで通り石積みみの壁と木造の小屋組とせざるを得ないのですが、耐震性能を上げるために、一部コンクリートで補強することとしました。施工管理体制も第3者的な立場で管理できる技術者を雇用し、設計図通りに施工されていることを写真で報告することを義務付けました。2期工事の時点では電気もわずかししか供給されていない状況でしたが、現在は太陽光発電と衛星通信によりEメールで写真を送ることも可能となり、管理環境は当時よりかなり改善されています。再建のための工事費は物価上昇や道路事情の悪化、ガソリン不足による資材運搬費用の高騰のため、寄宿舎3棟と食堂棟、便所棟の修復を合わせて約900万ネパールルピー(2015年10月時点のレートで約1020万円)と試算されています。1日も早くすべての施設を再建、修復するために、今後も募金活動を継続してまいります。引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



村人への説明会 125人が集まった



説明会の翌日から村人による瓦礫の撤去が始まった

TOPICS

竹中工務店深江竹友寮で寮祭が開催され、売上金がAAFに寄付されました

2015年6月27日・28日に竹中工務店の新社員寮である深江竹友寮(神戸市東灘区)で寮祭が開催され、バザーでの売上金が全額AAFに寄付されました。寄付金は、ネパール中部大地震で被災したフィリムの学校の再建費用として使われる予定です。

竹中工務店の寮祭での売上金の寄付は今回で4回目になります。今回は寮長と寮祭の実行委員会の計らいにより、AAFメンバーが寮まで赴いてAAFがどのような活動をしているのか、また地震による現地の被災状況について、寮生全員にお話しさせていただきました。現地でのビデオも上映し、ネパールの状況についてより身近に感じられたのではないかと思います。

今後も継続的に支援活動が繋がっていくことを期待したいと思います。

フィリムを訪れて

次にAAFがフィリムを訪れるのは3期工事の教員宿舎の竣工検査、そう思っていた矢先に想像もしていなかった大地震がネパールで起こりました。カトマンズやバクタプルで世界遺産にも登録されている煉瓦造の建物がいくつも倒壊している様子が連日テレビや新聞で報道されているのを見て、1日も早くフィリムへ行き、学校や村の状況を確認しなければ、と思いつつも実際に現地に入れたのは地震から約5か月後の9月26日でした。

私自身5年ぶりに訪れたフィリムには、いくつかの変化が見られました。地震によって倒壊した民家が撤去され、トタンの波板で屋根と壁を覆った仮設住宅がいくつも建てられていることも大きな変化であることはもちろんですが、宿泊のためのロッジの軒数が以前の何倍にも増えていること、太陽光発電のパネルや衛星通信のためのアンテナがいたるところに設置されていること、送電のための電柱が建ち始めていること、保健医療施設であるヘルスポストの建設が進められていることなど、ここ数年の間にこの地域が目に見えて発展してきていることがよくわかります。地震による被害を受けながらも村人たちの表情は決して暗くなく、むしろ明るくまっすぐ前を向いている印象を受けました。その発展の中心となっているのがAAFが支援

特定非営利活動法人 AAF 副理事長 野田 隆史

するブッダ・スクールです。これまで小学校しかなかったこの地域に、小・中・高校までの教育を受けることができるブッダ・スクールができて12年。向学心旺盛な子供たちの多くは優秀な成績でこの学校を卒業し、カトマンズやゴルカ、ポカラでさらに高度な教育を受けています。教師となってこの学校に戻ってきた卒業生も延べ人数で7人となりました。今ではネパール政府もブッダ・スクールのあるフィリムをゴルカ北部の中心的な地域と位置付け、前述したヘルスポストなどの公共施設の建設計画も進んでいるようです。学校の被災状況の調査に訪れた私たちを、学校運営委員会およびローカルNGO・HADCの副代表であるハリ・ゲール氏は「あなたたちが来るのを待っていた。学校の再建にはAAFの力が必要だ。」と迎えてくれ、翌日には100人を超える村人を集め、再建のためのミーティングを行いました。1日も早くテントで暮らす子供たちが入居できる寄宿舎を再建することが目下の最大の課題ですが、テントの中でも黙々と勉強を続ける彼らの姿に心を打たれ、支援に行った私たちが逆に元気をもらって村を後にしました。



AAF PROFILE

AAF (Asian Architecture Friendship)

2000年、竹中工務店大阪本店設計部の有志を中心に発足した民間ボランティア団体です。

建築を専門とする職能を活かして、ネパールのフィリムでの学校建設(2003年竣工)を皮切りに、アジア地域の開発途上国における学校等の施設建設支援を中心とする活動を行っています。

AAFの活動と実績

- 2003.04 ネパールのフィリムに'Buddha Primary & Secondary School'竣工
- 2005.04 「ヒマラヤに学校を建てよう! 建築家のボランティア奮闘記」(彰国社)を出版
- 2006.04 こども環境学会賞活動奨励賞受賞
- 2006.08 日本ネパール女性教育協会との提携によるカニヤ・キャンパスポカラ「さくら寮」竣工
- 2006.10 「パラレル・ニッポン 現代日本建築展1996-2006」(東京写真美術館)に出展
- 2007.05 日本建築学会賞(業績)受賞
- 2008.08 フィリムの学校、ポカラの「さくら寮」がイタリアの建築雑誌'domus'に掲載
- 2008.08~ 国際巡回展「地球にやさしい建築展」に出展
- 2009.05 フィリムの2期工事である寄宿舎(3棟)と食堂棟、便所棟が竣工
- 2009.10 フィリムの学校が第11回国際石材建築賞を受賞
- 2011.09 UIA2011東京大会第24回世界建築会議にてフィリムの学校プロジェクトを発表
- 2011.12 フィリムに4棟目の寄宿舎が竣工
- 2012.09 フィリムの3期工事(厨房棟)が着工
- 2013.02 厨房棟が竣工
- 2013.12 引き続き教員宿舎が着工
- 2015.04 AAFが特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を取得
- 2015.04 ネパール中部で発生した大地震により、フィリムが被災
- 2015.09 フィリムの学校の被災状況について現地調査を実施

ネパール大地震フィリム緊急支援募金のご報告

本年5月から実施してまいりました「ネパール大地震フィリム緊急支援募金」活動に対して400名を超える多くの皆様からご支援をいただきました。募金総額は9月30日の時点で4,329,650円です。

ここにあらためて感謝の意を表し、お礼申し上げます。頂戴しました寄付金は全額被災したブッダ・スクールの寄宿舎再建費用に充当させていただきます。

ブッダ・スクールの再建、修復のためにはさらなる建設資金が必要なため、AAFでは今後も募金活動を継続してまいります。引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

>>> 寄付の方法

ゆうちょ銀行払込取扱票の通信欄に「寄付」とご記入の上、下記口座をお願いいたします

>>> 口座番号：00910-0-64819

>>> 加入者名：AAF基金

※払込取扱票には住所・氏名・電話番号を必ず記入してください
 ※電子メールをご利用可能な方はE-mailアドレスを併記ください
 ※個人情報(AAF基金運用の目的以外)で使用いたしません

編集後記

学校での死者は出ませんでした。8人の村人がなくなり、その中にはブッダ・スクールの4年生もひとり含まれていたそうです。とても残念です。ただ、危険な状態の寄宿舎の撤去作業に100人を超える人たちが参加してくれたと聞き、みんながブッダ・スクールを大切に思ってくれている、これまでの活動が決して無駄にはなっていないと思えました。安全でさらによい学校になるよう一緒に頑張っていきたいと思えます。 T